リニア駅周辺整備における機能と活用について

飯田市リニア推進部リニア整備課

１．基本設計における整備の考え方と機能

令和元年度に完了したリニア駅周辺整備の基本設計では、以下の５点の設計方針を整備の柱に位置付け、今後の実施設計における詳細な検討を行っていくこととしている。（デザインノート参照）

１．アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間（P. 6～）

アクセスしやすい乗換え、ユニバーサルデザイン、バリアフリー環境など

２．住民や来訪者の居場所となる駅前空間（P. 8～）

来訪者と住民との交流、居心地の良い空間、伝統文化やコミュニティなど

３．伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間（P. 12～）

ランドスケープ、大屋根、自然と都市的な魅力の融合、歩行空間など

４．人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間（P. 16～）

人と人の出会いや人とモノの出会いを生む空間、いざなうきっかけづくりなど

５．時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間（P. 18～）

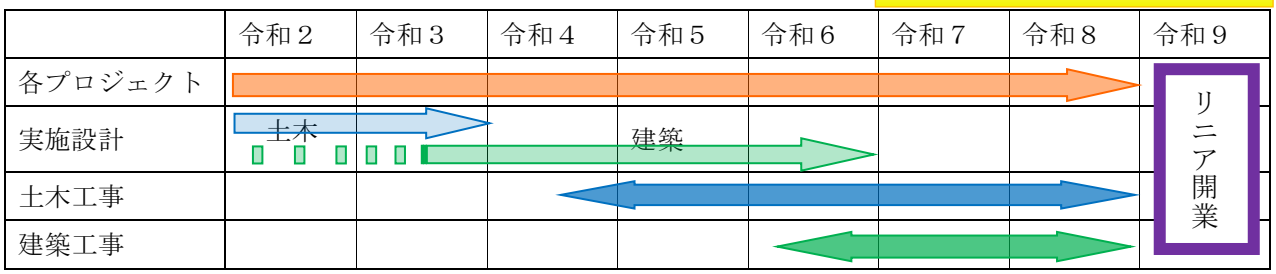
次世代モビリティ、再生可能エネルギーや低炭素技術、グリーンインフラなど

また、整備のあり方として「持続可能な魅力発信施設の運営に向けた仕組みづくり」（P. 20～）を掲げ、つかう側の持続的な運営についても考え方をまとめている。

２．整備に向けた現在の検討状況と今後の進め方

デザインノートにおける設計方針を具体化するため、自動運転や、ＥＶ、MaaＳ、低炭素エネルギーシステム等の検討を進める「次世代インフラプロジェクト」、建物やグリーンインフラ等の全体的なデザインの検討を進める「トータルデザインプロジェクト」、魅力発信や情報発信、担い手等の検討を進める「ブランドクリエイトプロジェクト」の３つのプロジェクトを設置し、検討の深化が必要な様々な課題を関連付け、研究を進めることとし、その成果を最終的に実施設計の内容に連動・反映させていくと共に、事業費との整合を含むトータル的な側面からの検証を経て「実施設計書」としてまとめていく。

スケジュール（予定）



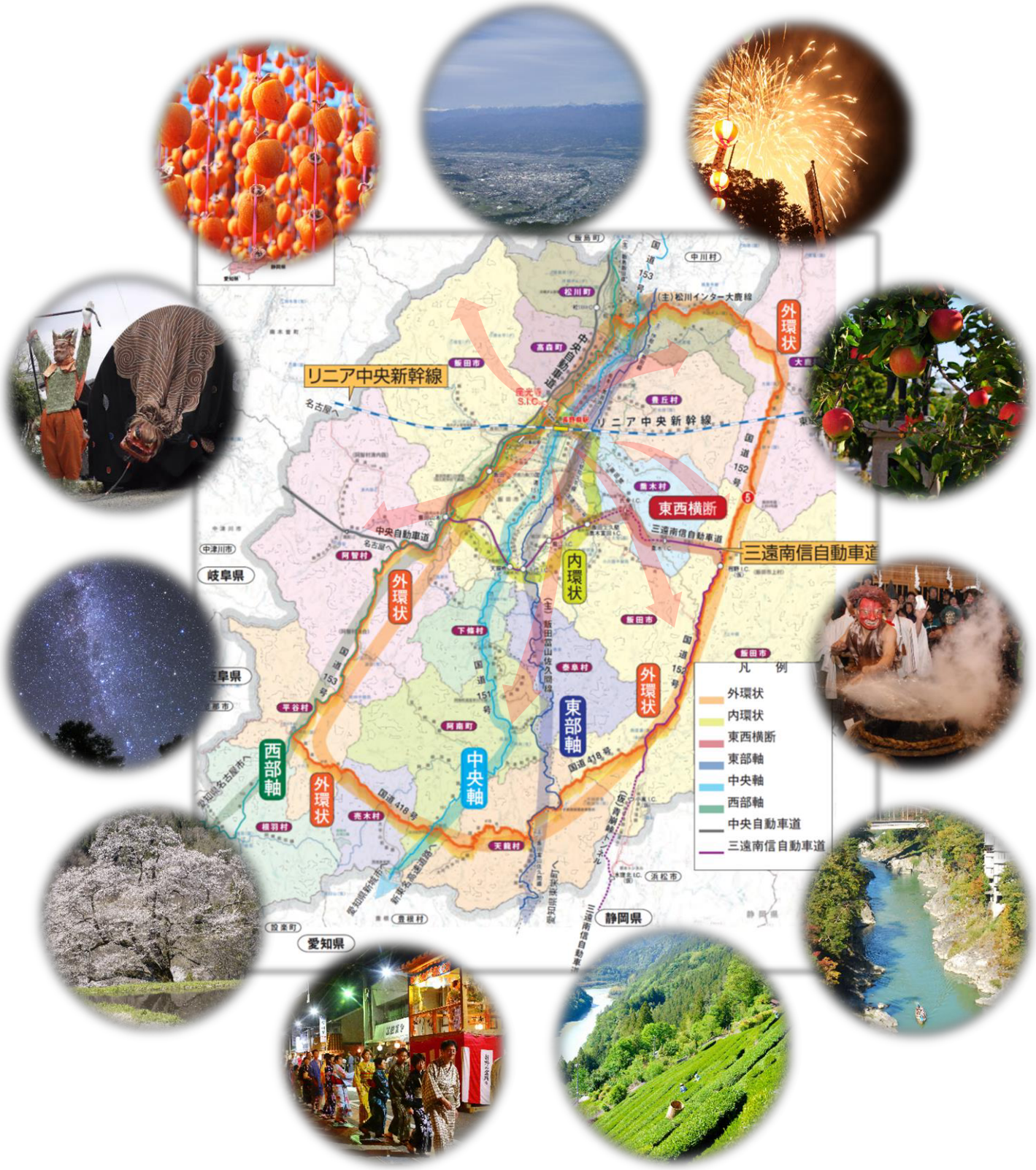
３．今後の検討に向けた課題

・リニアにより様々な人が来る「駅」という機能を活かし、どうその効果を地域に波及させるかには、域内における特色を活かした土地利用とそれを繋ぐ道路及び二次交通による各拠点へのアクセスを向上させることが必要となる。合わせて、大都市圏域の居住者に向けて、それぞれの地域の多様な魅力を大都市圏域に向けて発信することや、その魅力を体験・体感してもらう仕組みを積極的に構築していくことが必要となる。このため、以下の３点について一緒に考えていきたい。

① 各地区や拠点とどう結ぶか（ルートと方法）

② 地域の情報をどう発信するか（何を誰に届けるか）

③ 駅の施設を誰が運営し、そことどう関わるか

・駅周辺整備における 6.5ha という限られた空間発信では、それぞれの自治体や関係団体等がブースを展開することは困難であることから、来訪者に対して魅力発信施設やインフォメーションにおいて誰が何をどう提供し、どう“いざなう”のかが今後の検討課題であり、こうした施設と各地区や地域の拠点とがどう連携し関わっていくかなどについて、各町村や広域連合、及び県等と一緒に考えていく必要がある。

地域の魅力発信といざなう仕組みの構築